

① いわて生協 内澤 祥子代議員

「ヒバクシャ国際署名」について、岩手の会で50万筆、うち生協関係で20万筆、いわて生協では10万筆を目標に取り組む。理事会や理事懇談会でなぜ署名に取り組むか確認し、数字の大きさにプレッシャーも感じるが、今年の重要な運動課題としているので頑張りたい。各団体とも交流しながらモチベーションアップしていけるよう、県連にはリードして欲しい。

いわて生協では約800人のこ〜ぷ委員が地域で活動している。最初の頃はコープ商品を食べみんなで勉強したり子育ての参考になる企画など楽しい活動をしているが、だんだんに自分たちの暮らしには様々な問題がありことに気づき、自ら関わっていこうという気持ちになる。私たちの暮らしは、政治に直結している。主婦だって、政治に興味を持つのは当たり前だと思う。今の政治や平和についても、人々の間の不公平感がつらい。「協同組合とは」ということを勉強し、みんなでやれること、やるべき事を考えて行きたいと思う。県連には、生協交流会や講座・学習会など学ぶ場をつくってほしい。

②盛岡医療生協 関口 孝子代議員

特養老人ホーム「はなみずき」について、医療生協の設立当初からの夢がもう少しで実現できそうところまで来た。来年3月のオープンに向けて介護職員も育てているが、まだまだ不足している。寄付金も後もう少しなので、みなさんにもぜひ協力をお願いしたい。

昨年に引き続き、「健康チャレンジ」に取り組む。全てに取り組めばフレイル予防にもなるので、ぜひ参加していただきたい。また、「すこ塩生活6g未満」を提案しているので、購買生協さんのお弁当も「すこ塩弁当」を作っていただけたらと思う。

③盛岡大学生協 金野 玲奈代議員

盛岡大学生協では全国大学生協連主催の「ピースナウ」に参加している。参加者は現地で体験談を聞くことで、平和に対する知識を学ぶことができる。学んできたことは報告書やポスターにまとめ、文化祭で報告する活動も行っている。6月10日には「国民平和大行進」にも参加。行進後の集会では、核兵器廃絶について学生へ訴えていこうという決意表明をした。そのほかにも、学生委員会ではさまざまな活動をしている。これからも組合員の代表として平和について考え、きっかけとなるよう活動をすすめていきたい。

④みやこ映画生協 榎桁 一則代議員

2016年度は常設館が閉館となったが、映画を通じて、引き続き組合員や地域のみなさんに喜んでもらえる取り組みを実施してきた。2011年度から続く被災地巡回上映会も昨年は89回開催し、累計472回1万9,503人の方々に映画を楽しんでもらうことができた。また、地域での上映会のサポートなど、映画を通じてどんどん外に出る取り組みができた。2017年度も、引き続き被災地でのコミュニティの再生、被災者の心のケアなど集まれる場所の提供する取り組みをすすめていきたいので、今後ともよろしく願いしたい。

⑤岩手大学生協 塚原 英明代議員

奨学金問題について、岩手大学生協の学生アンケートでは53%が利用というデータが出ている。また全国の大学生協連のアンケートでは、利用者の半数が返済の目処が立っておらず、普段の生活もアルバイトに頼っている。奨学金の問題はぜひ、地域生協の皆さんとも協力しながら取り組みた

いと思うので、よろしくお願ひしたい。

地産地消の取り組みについて、先日も田植え体験をしたが、体験後はポスターに掲示・紹介するなど運動を広めている。約100名の学生委員会がボランティアや生協活動を通じて、みなさんと協力しながら地産地消や自分たちの食について考えて行きたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

⑥岩手県学校生協 沼田 聡代議員

この10年間で学校の教職員数は2,000名減り、先生方も日々忙しく話を聞いてもらえる時間も無くなった。それを事業に直結させ、先生方に自分たちの話を聞いてもらう環境づくりを、関係諸団体に協力いただきながらすすめた。例えば先生方へ福利厚生制度の説明会を継続して開催し、学校校長会や教育委員会からも要請を受け昨年も500名が参加、結果共済の見直しなどにつながり、共済事業は伸びている。そのような取り組みの積み重ねもあり、学校生協の話しなら聞いてもいいよ、というところまで近づいて来ていると思う。縮小するマーケット、非常に困難な中でも、組合員一人ひとりの身に立って、寄り添った事業を組合員の目線に立ってできれば事業は好転するのではないかということ学んだ。全国で3,000万人近い組合員を持つ生協になったにもかかわらず、組合員の思いが実現されていない社会だと思うし、生協の力が発揮できていないのではないかとも思う。さまざまな問題が学校現場にも起きているし、子どもたちにもその影響が出てきている。学校生協では引き続き運動をすすめたいと思うし、岩手の生協から全国の生協の動きを変えるべく、ぜひみなさんとともに取り組んで行きたい。

《意見に対する理事会からの答弁 加藤善正会長理事》

政治に関する発言で、「国民の教養だ」という言葉はとても新鮮に感じた。今、政治に関わらないものはなく、本当は政治の仕組み、実態やあるべき姿は国民が危機感を持って考えなくてはならないが、日本はそこが弱い。話し合いをすることで理解も深まると思うが、最近は話し合うこと自体、減ってきている。地域や職場で意識的に話し合う場をつくっていかないと、マスコミからの情報のみで知らないことばかり増えてしまう国になってしまう。生協が人と人の組織であるならば、話し合う場をどんどん設けて、いろんな情報を共有する取り組みをしなければならぬと思う。岩手の生協は、政治的・社会的問題に他団体とも協力して取り組みをすすめている。政治色を出すと、組合員が離れてしまうのではと心配している生協も全国には多数あるが、そうではない。岩手の生協は地域の世帯数の約半数を占めており、協同組合らしい生協運動を発展させていかなければと思う。全国の学校生協の中で、発展しているのは岩手県学校生協だけで、やはり組合員に寄り添い、こちらから仕掛けるといふ戦略がうまく行っているのだと思う。組合員の力、組織の力を生協らしく、協同組合らしく発展させ、事業と組合員の要望にマッチさせ、新しく組み立て直し拡充することが大事。非常に厳しい社会情勢だが、がんばって行きたい。よく生協は助け合いの組織だが、誰がどのように支えるのかというと、社会的・経済的に弱い立場の人たちが助け合えないと実現できないから、やむをえず助け合っている。なぜ経済的な弱者になっているか本質を見抜き、仕組みを変えさせる運動と助け合う運動を両輪ですすめないといけない。岩手の生協は「協同組合とは」をもっと掘り下げ、協同組合らしい生協、理念や価値を組合員のみなさんに深めていくのは本当に難しいが、今後とも頑張ってもらいたい。